

収益は福祉団体へ寄付

銅線回収で社会貢献

県電業協会



福井県電業協会(伊藤 仁一郎会長)は18日、毎年恒例の銅線回収ボランティアを実施した。今年で21回目となる同活動は、工事の際に不要となった銅線を集め、

協力して回収作業に当たる会員たち=西川電業敷地内
電線メーカーの矢崎エナジーシステム(東京都港区三田)に売却し、年度末に浄財として福井県社会福祉協議会へ寄付を行うもの。

活動を通じて社会貢献し、資源リサイクルにも資する。今回は会員・賛助会員など計77社が協力した。

この日、西川電業(福井市御幸)へ福井・坂井地区の会員たちが持ち込んだ銅線を分別し回収。その後、奥越・越前・嶺南の各地区で回収された銅線が運び込まれ、それを矢崎エナジーシステムのリサイクル工場へ運搬した。なお、昨年は銅線総量約5・27トンを回収している。

会員の西村綾仁氏(土牧電機社長)は「普段行っているライフラインの維持、工事、補修の仕事と、このリサイクル活動が社会に役立っていることを会員たちに伝え、電気工事業業の意義を大きく大切なものとして認識してほしい」と話した。